SNAPPER™

LT200シリーズ
LT2250／LT2042

取扱説明書

ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読み下さい

POWERED BY BRIGGS&STRATTON

ブリッグス・アンド・ストラットンジャパン株式会社

目次

目次......1
１　取扱説明書と芝刈機の製造番号......3
２　警告シール......4
３　各部の名称と機能......5
４　使用上の注意、警告事項......8
　４−１　運転前の注意......9
　４−２　運転時の注意......9
　４−３　運転後、整備時について......10
５　運転前の準備点検......12
　５−１　バッテリーの準備......12
　５−２　タイヤ......13
　５−３　デッキ、サイドシュート......13
　５−４　エンジンオイル......13
　５−５　座席の調節......13
　５−６　デッキ及びエンジン......13
　５−７　ブレードスイッチの作動......14
　５−８　安全装置......14
　５−９　ガソリンの給油......15
　５−１０　トラクター牽引......15
６　始動、操作、停止......16
　６−１　エンジンの始動......16
　６−２　走　行......17
　６−３　走行の停止......17
　６−４　駐車ブレーキ......17
　６−5　エンジンの停止......17
　６−６　12V 電源取り出し。......18
　６−７　クルーズコントロール......18
７　芝刈り作業......19
　７−１　ブレードの回転......19
　７−２　刈高の調整......19
　７−３　芝刈り中の後退......20
　７−４　ブレードの停止......20
８　整　備......21
　８−１　芝刈機を押して移動する場合......21
　８−２　バッテリーメンテナンス......22
　　①　バッテリーの取り外し......22
　　②　バッテリーの取り付け......22
　８−３　バッテリーの充電......23
　８−４　バッテリーのテスト......23
　８−５　ヒューズの交換......24
　８−６　エンジンフードの取り付け取り外し......24
　８−７　デッキの取外し......25
　８−８　デッキの取り付け......26
　８−９　ブレードの取り外し......26
　８−１０　ブレードの点検･研磨......26
　８−１１　刃物取り付け......27
　８−１２　油圧変速機（ＨＳＴ）......27
　８−１３　グリスアップ......27
　８−１４　後輪車軸のグリスアップ......29
　８−１５　保管......29
１１　トラブルシューティング......30
１２　定期整備表......32
付録　スナッパーとホコリの戦い......33

1　取扱説明書と芝刈機の製造番号

- このたびはスナッパー芝刈機をお買上げいただき誠にありがとうございます。
- この説明書は芝刈機の正しい取扱方法と、簡単な点検と手入れについて説明してあります。
- 運転する前に必ずお読みいただき、正しく安全な取扱いをお願いします。
- 本機の品質には万全を期しておりますが、作動の不具合や部品などに不備な点がありましたら、当社営業所、販売店、又は協力サービス工場へご連絡下さい。
- **この取扱説明書はいつも手元に保管して繰り返しお読み下さい。**
- **取扱説明書に記載された使用方法及び保守点検を守らない場合は、本機の故障や事故などの原因となり、機械の寿命を縮めるばかりでなく作業の安全を損ないます。**
- お問い合わせの際は、モデルＮｏ、シリアルＮｏを、お知らせください。本機と、デッキのモデル№とシリアル№は、図１の個所に表示してあります。

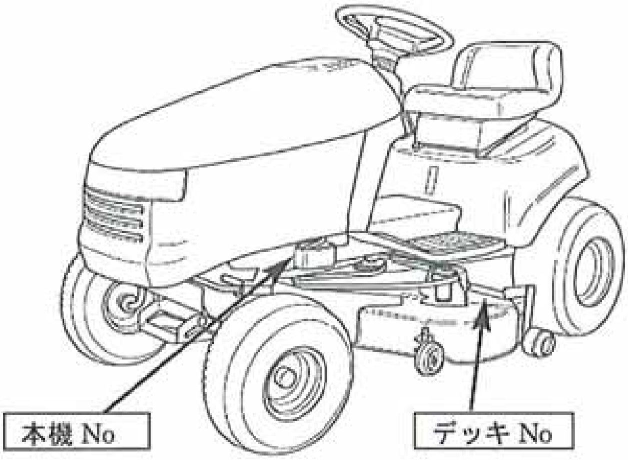


図１

- 下記の記入欄に御買い求めになった芝刈機のモデル№とシリアル№、購入年月日、購入店名を記録して頂き、お問い合わせ、部品の購入、修理依頼の際に、お役立て下さい。

本機		
モデルナンバー	パーツナンバー	シリアルナンバー

デッキ
シリアルナンバー

エンジン	
モデルナンバー	シリアルナンバー

購入年月日	購入店

2　警告シール

- 事故防止の為に次のような警告シールを使用しています。

・注　意

- 警告シールが、剥がれたときは販売店よりお求めください。
- 警告シールは剥がさないでください。

デッキ右側　図2

本体右後部　図3

デッキ左側　図3

本体中央部　図4

3　各部の名称と機能

- 図５は、スナッパー芝刈機ＬＴ200 シリーズ、ＬＴ2250／ＬＴ2042 の各部の名称を示します。
- 芝刈機を操作する人は実際の操作に入る前に、図 ５ をよく見て、芝刈機の運転や操作に必要な箇所を確認して下さい。
- エンジンの取扱いに必要な作業、注意点等の詳細は、同封のエンジンの取扱説明書を参照して下さい。
- この「スナッパー芝刈機」の取扱説明書とエンジンの取扱説明書は事前によく理解しておき、作業に入った後も常に手元において、実際の操作の参考にして下さい。

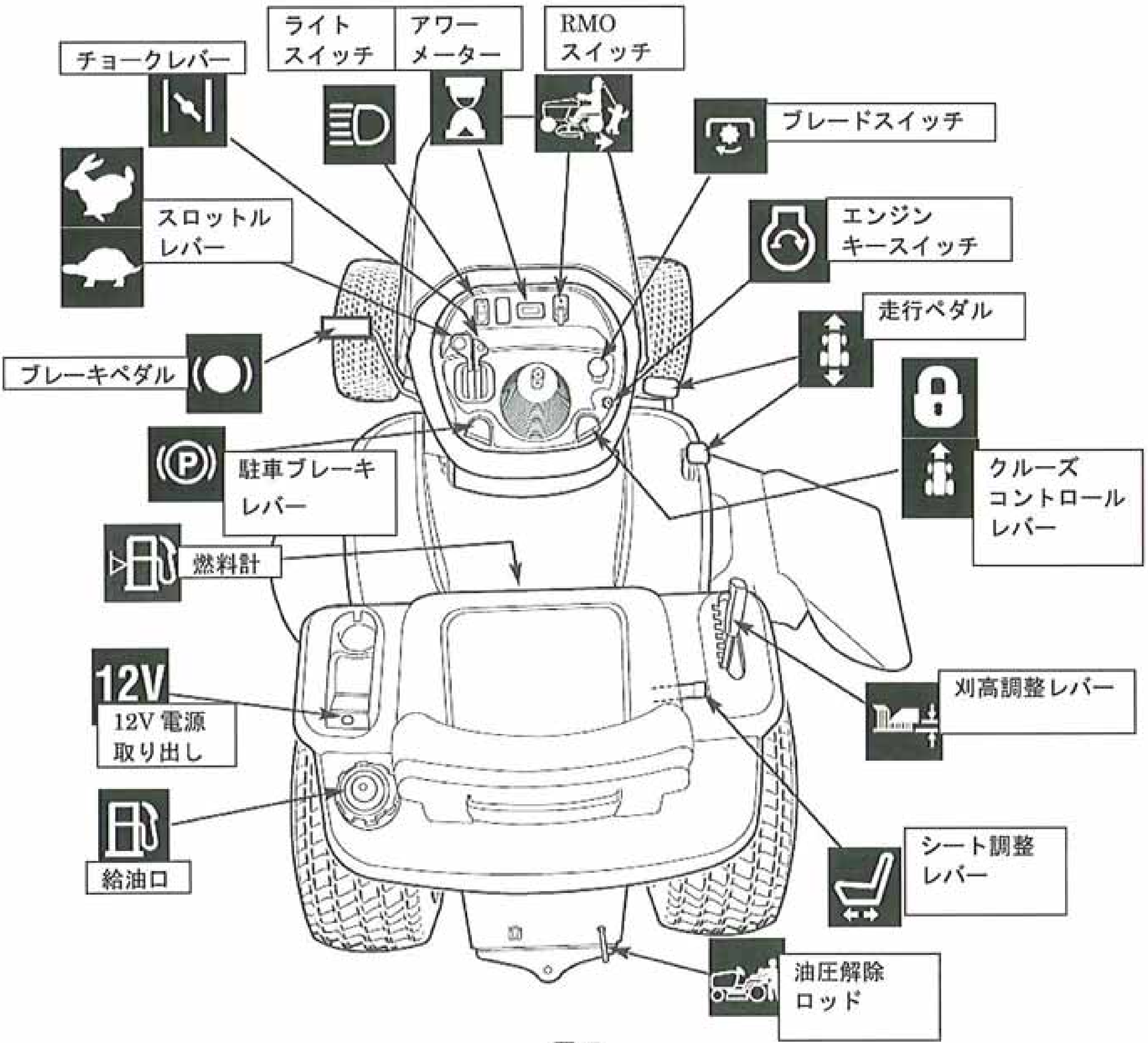
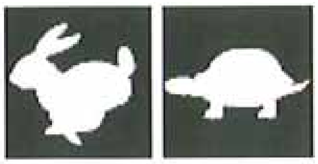
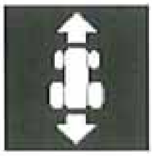
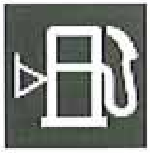


図５

スロットルレバー 	エンジンのスピードを調節します。 奥に倒すと、回転が上がり、手前に倒すと、回転が下がります。 通常は、最高回転で使用します。

<table>
<tr><td>チョークレバー
 </td><td colspan="2">奥に倒すと、チョークを閉じます。
エンジンが冷えているときに、使用します。
エンジン始動後は、チョークを元に戻します。</td></tr>
<tr><td>ライトスイッチ
 </td><td colspan="2">本機のヘッドライトを、ON、OFF、します。</td></tr>
<tr><td>アワーメーター
 </td><td colspan="2">エンジンキーが、ONになっている時間を、表示します。</td></tr>
<tr><td>RMOスイッチ
 </td><td colspan="2">RMO（Reverse Mowing Option）
本機を後退させながら、芝刈り作業を行なう場合は、RMOスイッチを入れて、ランプが点灯中に行ないます。
後退しながらの芝刈り作業を、禁止するために、スイッチを取り外すことができます。</td></tr>
<tr><td>ブレードスイッチ
 </td><td colspan="2">スイッチを引っ張ると、ブレードが回転します。
スイッチを押すと、ブレードが停止します。
作業者が正しく着席していない場合に、ブレードスイッチをONにすると、エンジンが停止します。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">エンジンキースイッチ
 </td><td> </td><td>OFF
エンジン停止。
電装品 OFF。</td></tr>
<tr><td> </td><td>走行
エンジン運転
電装品　ON</td></tr>
<tr><td> </td><td>エンジン始動
セルモーター回転</td></tr>
<tr><td colspan="2">エンジン停止後は、キースイッチは、OFFにしておいてください。
走行のままにしておいた場合、バッテリーが消耗することがあります。</td></tr>
<tr><td>走行ペダル
</td><td colspan="2">前側のペダルを踏むと前進。
後ろ側のペダルを踏むと後退します。
深く踏むと、速度は上昇します。</td></tr>
</table>

クルーズコントロール	走行ペダルを、前進のまま固定することができます。

	速度調整は、５段階です。
刈高調整レバー 	刈高は、1-1/4" ～ 4."（３２mm～１０２mm）の間で、７段階で、調節できます。
シート調整レバー 	シート右横のレバーを、引き上げると、座席を前後に動かすことが出来ます。
油圧解除ロッド 	トランスミッションの油圧を解除し、本機を手で押して動かすことが出来ます。
給油口 	キャップを開けて、燃料を給油します。
12V 電源取り出し 	12VDC を、取り出すことが出来ます。 ※　使用機器は、9A 以下でご使用下さい。
燃料計 	タンク内の燃料の残量を表示します。
駐車ブレーキ 	ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んで、駐車ブレーキレバーを引くと、駐車ブレーキかかります。
ブレーキペダル 	ブレーキペダルを踏み込むと、ブレーキがかかります。

4　使用上の注意、警告事項

すべての安全規則を守ること

この取扱説明書に記載されている警告及び注意事項をよく読み、確実に理解して下さい。

文中の ・［警告］ ・［注意］は安全上及び取扱上特に重要な部分ですので、必ず守って下さい。

・［警告］・・特に重要な取扱上の警告事項です。

ここに説明された事項については、間違った取扱いをしますと重大な事故や死亡の原因にもなりますので、必ず守って下さい。

・［注意］・・正しい操作のための注意事項です。

ここに説明された事項については、間違った取扱いをしますと事故や負傷及び機械の故障の原因にもなりますので、必ず守って下さい。

・警　告

1. この芝刈機は身体や周囲の物に損傷を与えるものを飛散させたり、手や脚を切断してしまう恐れがあります。
2. 以下の安全事項の確認を怠りますと、重傷を負ったり死に至る危険性が生じますので、この取扱説明書をよく読み不明な点があれば販売店、代理店までお問い合わせ下さい。

・警　告：子供の保護のために

1. 芝刈機の運転中は、ブレードが停止していても子供を芝刈現場に入れてはいけません。
2. ブレードを停止させていても、子供を芝刈機の本体や牽引部分に乗せてはいけません。
3. 子供や高齢者に芝刈機を運転させてはいけません。

・警　告：傾斜地で転倒を避けるために

1. 傾斜地での走行は、操縦が不安定になったり、転倒する危険が非常に多く、大怪我や死亡事故の原因となりますから最大の注意を払って下さい。
   特にグラスキャッチャーや他のアタッチメントを取り付けているときは、安定性が悪くなる場合がありますから充分注意して下さい。
2. 傾斜地を走行するときは常にゆっくりと、前進方向で注意深く発進して下さい。
3. 10度(18%勾配)を越す急な斜面で芝刈機を使用してはいけません。
4. 抵抗の多い場所や安定性の悪い場所では、芝刈り作業をしないで下さい。
5. 草に隠れた危険物や障害物、穴等に常に注意を払い、溝や崩壊物、排水渠、フェンス、突き出た物等には近づかないで下さい。
6. 溝の端等落下の危険性のある場所から最低1メートルは安全な距離を保って下さい
7. 斜面を走行するときは、下記のことに充分注意して下さい。

7-1 坂を登るときや減速するときは、ブレードを停止し、急な方向転換をしないで下さい。

7-2 登り坂では芝刈機を発進しないで下さい。

7-3 芝刈機が上り坂の途中で停止した場合は、ブレードを停止してゆっくり後退し、斜面をおりて下さい。

7-4 斜面の上下方向に向かって前進、後退しながら芝刈り作業をしないで下さい。

7-5 バランスが変化しやすいので、グラスキャッチャーを使用してはいけません。

7-6 芝が濡れている時は、芝刈機が滑って危険ですから運転してはいけません。

４－１　運転前の注意

1. ６０才以上の人が芝刈機を運転する場合に、芝刈機に関連した怪我をすることが非常に多いという統計があります。６０才以上の人は自分自身や他の人に大怪我をさせないで安全に芝刈機を運転できる技量があるか良く判断することが重要です。
2. 取扱説明書をよく読み、エンジンを始動する前に操縦装置の位置を憶え、操作方法を練習して下さい。
3. アタッチメント類の取扱説明書も良く読んで、取扱い方法を憶えて下さい。
4. 芝刈機本体やエンジンに貼ってある、警告や注意事項のラベルに注意を払って下さい。
5. 芝刈り作業をする時は、必ず長ズボンや安全靴といった保護服を着用して下さい。
6. 絶対にサンダルや裸足で作業してはいけません。
7. 飲酒後や、薬物の服用後は絶対に芝刈機を操作してはいけません。
8. エンジンとブレードの停止方法を憶えて、緊急時に素早く対処できるよう練習して下さい。
9. 人やペットを芝刈機、芝刈現場に近づけないで下さい。　もし芝刈り現場に、人やペットが入ってきたらすぐに芝刈機を止めて、ブレードも止めて下さい。
10. グラスキャッチャー、サイドシュート、安全スイッチ、ブレードコントロール等の安全装置が正しく機能する位置に取り付けられているか確認しておいて下さい。
11. ブレードにはじきとばされて周囲に危険を及ぼす原因となるような棒切れ、針金、あき缶や石等の障害物は、芝刈りの現場から事前に取り除いておいて下さい。
12. グラスキャッチャーやサイドシュートを正しい位置に取付けて下さい。
13. 芝の排出口は絶対に人や通りがかった車、建物の窓、ドア等の方へ向けてはいけません。

・注　意：運転前の準備

1. 初めて芝刈機を運転する時は、先ずブレードを停止したまま芝刈機の操作の練習をして操作方法を習得し、扱いに慣れて下さい。

４－２　運転時の注意

・警　告：運転時について

1. 室内、および換気の悪い場所ではエンジンを動かしてはいけません。
2. 排気ガスには無臭で有毒な一酸化炭素が含まれています。
3. 芝刈機への乗り降りは、必ず芝刈機の運転席からみて左側から行って下さい。
4. 芝刈機を離れるときはブレードを停止し、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけ、キーを抜いておいて下さい。
5. 芝刈機は座席に正しく座り、ペダルに足をかけてから運転して下さい。
6. ブレードが回転しているデッキの下部に手や脚を近づけないで下さい。
7. ブレード回転中や芝刈機が動いている時は足を地面につけないで下さい。
8. 芝刈機の方向を変えるときは、予めスピードゆるめて下さい。
9. 芝刈機が移動して、足がブレードに触れないように充分注意して下さい。
10. 芝を刈る時以外はブレードスイッチは「OFF」にしておいて下さい。

・警　告：運転時について

11. 芝刈機を後退させるときは、芝刈機の後方一帯の子供やペット、危険な場所などの安全をよく確認して下さい。
12. 後退しながらの芝刈りはできるだけ避けてください。
13. 荷物（車）を牽引する時は安全に充分注意して下さい。

・注　意：運転時について

1. 道路を横切るとき及び道路の近くや、交通のあるところで芝刈りをする時は通行する人や車に充分注意を払って下さい。
2. 見えない曲がり角や、潅木や木の周りは視界が悪いので特に注意を払って下さい。
3. 草が生い茂った場所で芝刈り作業をする場合は、刈高位置を最高にセットして作業して下さい。
4. 芝刈機が障害物に当たったら、すぐにエンジンを止め、ブレードを停止させてから、破損していたり、異常な個所がないか芝刈機を検査して下さい。もし破損していたら修理をしてから芝刈機を使用して下さい。
5. 芝刈りは日中でも夜でも、充分に照明が確保できる場所で行って下さい。
6. 芝刈り機をトラックに積み込んだり、おろすときは特に注意して下さい。

4－3　運転後、整備時について

・警　告：運転後、整備時について

1. 芝刈機の点検・整備をする時は必ずエンジンが完全に停止したのを確認してから行なって下さい。
2. ガソリンの取扱いには充分注意を払い、下記の事項に従って下さい。
3. エンジンが動いている間は、燃料タンクのキャップを絶対に開けてはいけません。
4. 給油は屋外でエンジンを停止し、エンジンが完全に冷えてから行なって下さい。
5. ガソリンがこぼれたら、すぐに周りをきれいに拭いて下さい。
6. ガソリンは規格に合ったガソリン用の容器に入れ、通気のよい広い空間のある、子供の手の届かない屋内の冷暗所に保管して下さい。
7. 狭い場所で芝刈り機を保管するときは、エンジンが充分に冷えてから保管して下さい。
8. スパークプラグを外して、プラグ穴付近でスパークのテストをしてはいけません。シリンダーのガスが噴き出て、引火する危険があります。
9. 手や指が損なわれれるのを防ぐため、デッキやブレードにつまった草や葉など、作業の妨げになるようなものを取り除くときは、ブレードスイッチを「OFF」の位置にして，エンジンを停止しブレードが完全に止まったのを確認して下さい。
10. エンジンのガバナースプリングに手を加えたり交換したりして、販売時に調整されているスピードを変えたり、エンジンの最高回転数を上げたりしてはいけません。
11. 芝刈り機や、ガソリンの入った容器は次のような場所で保管してはいけません。
    裸火のある場所　　温水器などのスイッチのスパークが出る場所　　高温な場所。
    乾燥機やガス器具を使用している場所。その他引火や着火の危険がある場所。

・注　意：運転後、整備時について

1. 芝刈機は使用シーズンが終る毎に年に一度、及び新しい安全装置が装備されることになった時に販売店で点検，整備をして下さい。
2. 芝刈機の整備の際に交換部品が必要な場合は、スナッパーの純正交換部品を使用して下さい。
3. 頻繁に全てのボルト、ナット、スクリュー類をチェックし、緩んでいればしっかりと締め付け、その度に点検、修理、調整を行ない、又必要であればブレーキを交換して下さい。
4. この取扱説明書に従って各部の動きが悪くならないように、定期的に注油して下さい。
5. グラスキャッチャーを使用する時は、グラスキャッチャーを構成する部品を時々点検し、安全の確保上、交換を必要とするような古くなったり弱くなったりした部品は、新しい部品と交換して下さい。

5　運転前の準備点検

・警　告

点検調整を行なう際には、必ず次の事を確認してから行なって下さい。

1. エンジンを完全に停止します。
2. エンジンキーを抜きます。
3. 駐車ブレーキを掛けます。

● 芝刈機を始動させる前に各部分の組立、点検、調整を行って下さい。

5−1　バッテリーの準備

● このバッテリーはメインテナンスフリー型です。

● 電解液が封入されていますから、そのまま使用できます。

● 決してキャップのシールを剥がしてはいけません。

1. エンジンフードを、開けると、運転席側に、バッテリーが装着されています。（図6）
2. 初めにバッテリーの（＋）ターミナルに赤色コードをボルトとナットで取り付けます。
3. 後から（−）ターミナルに黒色コードをボルトとナットで取り付けます。
4. ターミナルの腐食を防ぐため、両方のターミナルにグリスを薄く塗りつけておきます。
5. （＋）ターミナルにターミナルカバーをかぶせます。
6. エンジンフードを閉めます

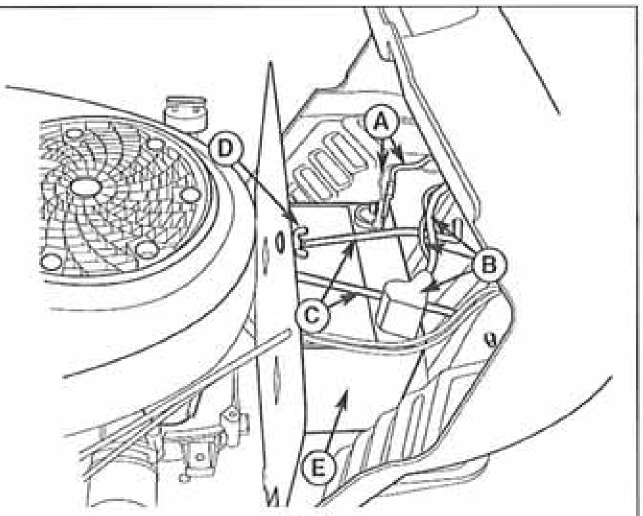


図6

メンテナンスについては、8−2　バッテリーメンテナンスを、参照ください。

■ バッテリーのケーブルを、取り外すときは、（−）ターミナルから、取り外します。

■ バッテリーケーブルを、取り付けるときは、（＋）ターミナルから、取り付けます。

・警　告

1. バッテリーを取り扱う際には、エンジンの取扱説明書を合わせて読み、充分に注意して下さい。
2. 充電するときもバッテリーの上面に貼ってあるシールを剥がさないで下さい。
3. もし電解液が皮膚、衣服などに着いたら多量の水でよく洗います。
4. もし電解液が目に入ったら水でよく洗い、すぐに医者にかかります。
5. 電解液からは爆発性の高いガスが出ますからスパークや火気を近づけてはいけません。

5−2　タイヤ

1. 傷の有無を確認し、傷がある場合は販売店へお知らせ下さい。（図７）
2. タイヤの空気圧を点検し、空気圧を下記の適正圧力に調整して下さい。

タイヤサイズ	空気圧
22×10 20×8	10−12　PSI 0．69−0.82bar 0．7−0.84kgf/cm²
15×6	12−15　PSI 0．82−1.00 bar 0.84−1.05kgf/cm²

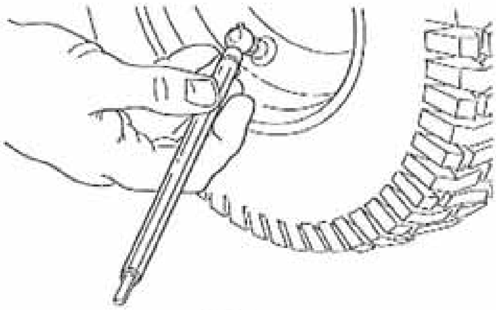


図７

5−3　デッキ、サイドシュート

- デッキ、サイドシュート及び保護カバー類が定められた位置に確実に固定されているか確認し、取付けがゆるんでいる場合は増し締めを行なって下さい。
- 破損の有無を確認し、破損箇所がある場合は販売店お知らせ下さい。

5−4　エンジンオイル

- エンジンフードを、開けます。
- エンジンのオイルゲージを抜き取り、エンジンオイルの量を点検します。（図８）
- もし足りなければエンジンの取扱説明書に従って４サイクルエンジンオイルを適量入れます。決して多く入れ過ぎてはいけません。

図８

5−5　座席の調節

- 座席に座ってみて操作し易い位置に、座席の位置を調節して下さい。

座席右のシート調整レバーを、持ち上げると、差座席を前後に動かすことが出来ます。適当な位置にセットしてください。

5−6　デッキ及びエンジン

- デッキ及びエンジンの表面についたオイル、ほこり、草等を除去します。
- エンジンのエアクリーナーや冷却ファンはエンジンの取扱説明書を参照し、常にきれいにしておいて下さい。

5−7　ブレードスイッチの作動

- ブレードスイッチがスムースに作動するかどうか点検します。

1. ブレードスイッチを引き上げるとスイッチが入り、押し込むとスイッチが切れます。
2. ブレードスイッチを引いたり、押したりしてみて下さい。

5−8　安全装置

- 本機には、安全装置が組み込まれています。
- 以下の項目が、正しく働いているか確認をお願いします。
- これらの安全装置が正しく働かない場合は、使用を中止し、販売店へご連絡ください。
- これらが、正しく修理されるまで、使用してはいけません。

■　インターロックシステム

ブレードスイッチが、ON になっている。 ブレーキペダルが、いっぱいに、踏み込まれていない。 （もしくは、駐車ブレーキがかかっていない。）	→セル回らない。

ブレードスイッチが OFF になってる。 かつ、ブレーキがいっぱいに踏み込まれている。 （もしくは、駐車ブレーキがかかっている）	→セル回る

ブレードが、ON になっているときに、座席から立ち上がる。 ブレーキが、いっぱいにふまれていない （もしくは、駐車ブレーキがかかっていない）ときに、座席から立ち上がる。	→エンジンが停止する

■　RMO スイッチ

ブレードスイッチが入っているときに，RMO スイッチを入れないで、後退しようとする。	→エンジンが停止する
RMO スイッチを、入れて、LED ランプが点灯しているときに，後退する	→エンジンが停止しない。

■　ブレードブレーキ

ブレード回転中に、ブレードスイッチを OFF にした場合、5秒以内にブレードが、停止しなければなりません。

※ ブレードの停止は、ブレードのベルトの動きを確認して下さい。

・注　意
ブレードスイッチを「OFF」にした時、５秒以内にブレードが停止します。 もしブレードが停止するまでに５秒以上かかる場合は販売店で調節してから芝刈機を使用して下さい。

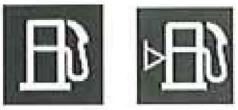
5－9　ガソリンの給油

・警　告

1. エンジンを停止して、エンジンが冷えている時に給油して下さい。
2. 給油の際には火の気のない場所で行なって下さい。
3. 給油、又はガソリンを使う作業を行なうときに、タバコを吸ったり、引火の原因となるものを使ってはいけません。

1. 芝刈機を屋外の通気の良い場所に出し、本機左後ろの燃料キャップを開けて、燃料タンクに新しい無鉛レギュラーガソリンを適量入れます。（図９）
2. 燃料の量は、燃料計を、見てください。
3. 給油後はタンクキャップをしっかりと締めてください。

詳細はエンジンの取扱説明書を参照し、指示に従って下さい。



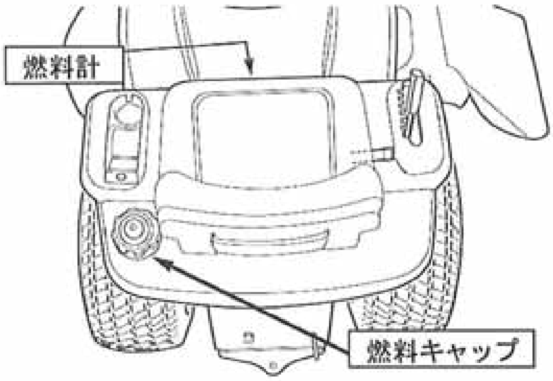


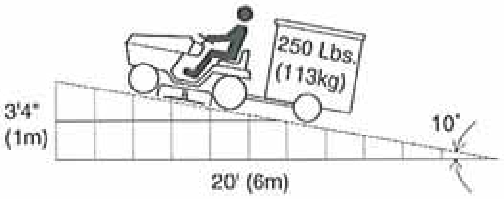
図９

・注　意

● 10%以上のエタノール、ガソリン添加剤、ホワイトガソリン、アルコール系燃料は、エンジンの燃料系の故障の原因となることがありますので、使用しないでください。

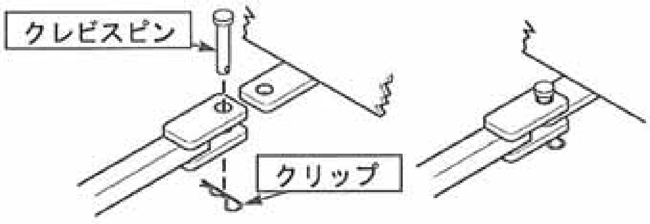
5－10　トラクター牽引

● 牽引の最大荷重は、水平方向に、280N、垂直方向に、160Nとなっております。
● これは、10度の斜面で、113ｋｇのトレーラーの牽引に相当します。（図10）



（図１０）

● トレーラーは、適切なクレビスピンと、クリップで、固定してください。（図11）



（図１１）

6　始動、操作、停止

6－1　エンジンの始動

・警　告

- 芝刈機の座席に座って、周囲を見渡して、人や子供やペットがいないか安全を確認してからエンジンを始動します。

・注　意

- 芝刈機にはエンジン始動と同時にブレードが回りだすことの無いように、安全装置が組み込まれております。５－８安全装置参照

1. ブレードスイッチが「ＯＦＦ」の位置（押し下げた位置）にあるか確かめます。（図１２）
2. ブレーキペダルをいっぱいに踏み込みます。
   もしくは、駐車ブレーキをかけます。
   ブレーキペダルをいっぱいに踏み込まないとエンジンは始動しません。
3. 座席に深く座ります。
4. 走行ペダルから、足を離します。
5. スロットルレバーを、最高回転に合せます。
6. エンジンが冷えている状態で始動させる場合は、スロットルレバーを一杯に引き上げてチョークの位置にします。
7. エンジンキーを点火スイッチに差込み、エンジンがかかるまでキーを「エンジン始動」の位置に回し続けます。

OFF	走行	エンジン始動

8. エンジンが始動したら、キーから指を離して，スロットルレバーを徐々に戻し、エンジンがスムーズに回転するまでしばらく暖機運転します。

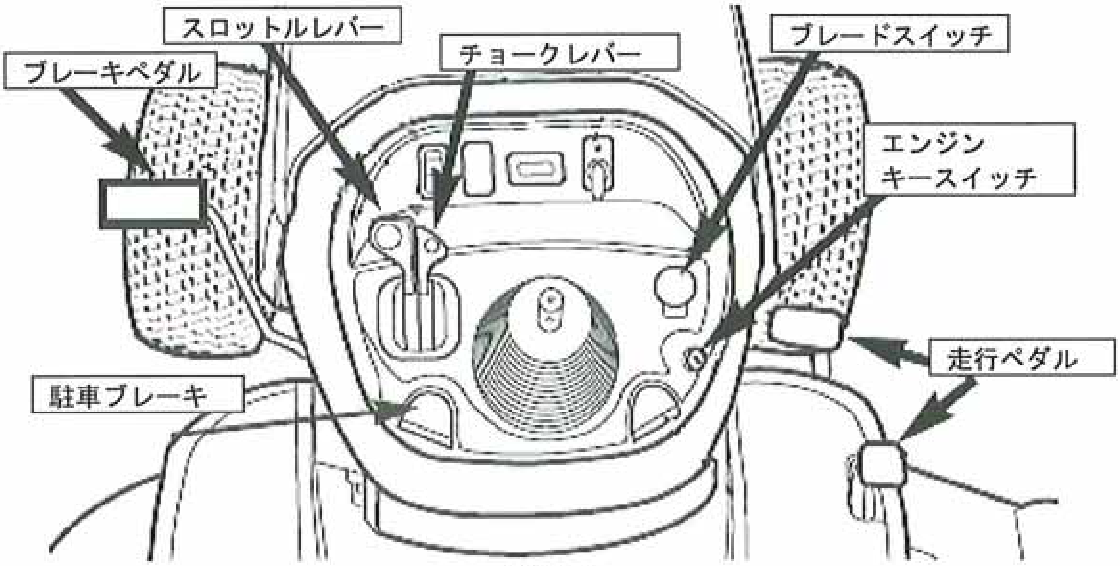


図12

付　記

- 停止直後などのようにエンジンが暖まっているときには、チョークノブを引かなくてもエンジンは始動します。
- エンジンが暖まっている時でも始動しない場合にはチョークを、閉じてください。

・注　意

- ５秒間回し続けてもエンジンが始動しない場合は、キーを戻し、２０秒経ってからもう一度スタートさせて下さい。５秒以上連続してスターターを回すと、セルモーターやソレノイドが焼けることがあります。

６－２　走　行

1. エンジンの暖機運転が終わったら、スロットルレバーを中速にして、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、駐車ブレーキを解除します。（６－４　駐車ブレーキ参照）
2. ブレーキペダルから足を離します（図１３）
3. ゆっくりと走行ペダルを、踏み込みます。

※　走行ペダルは、ゆっくり動かして下さい。急発進や急停止は変速機の寿命を短くします。

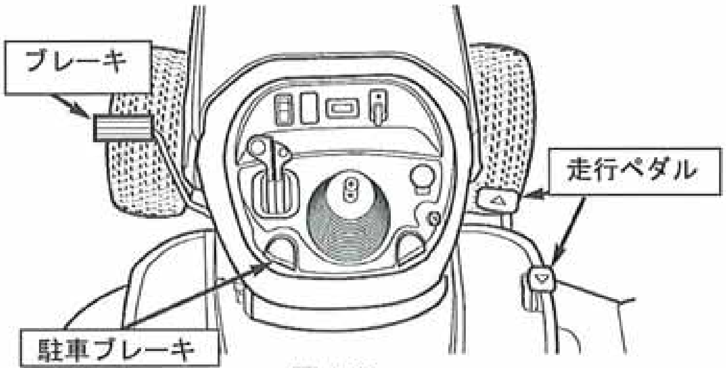


図１３

６－３　走行の停止

- 走行ペダルから足を離して、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込むと停止します。

６－４　駐車ブレーキ

1. 走行ペダルから足を離して、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込みます。
2. そのまま、駐車ブレーキレバーを、引きます。
3. もう一度、ブレーキペダルを踏み込むと、駐車ブレーキは、解除されます。

・警　告

- 芝刈機は絶対に傾斜面などの傾いた状態で駐車してはいけません。

６－５　エンジンの停止

1. 走行ペダルから足を離し、ブレーキを踏んで、本機を、停止させます。
2. ブレードを、停止させます。
3. スロットルレバーを手前に倒し、回転を落とします。
4. １分ほど回転させてから、エンジンスイッチを「OFF」にします。

　※　使用後は、キーを抜いておいてください。

6－6　12V 電源取り出し。

> **・注　意**
> - 安全のために、本機の運転中に、ラジオや、音楽を、ヘッドホンを使用して聞いては、いけません。

- 座席左のプラグに、接続することで、１２V の電源を取り出すことができます。
- 使用機器は、9A 以下のものをお使いください。
- エンジンの回転が低いまま、電源を使用すると、バッテリが上がりとなる可能性があります。
- 電源を使用してない場合は、プラグにキャップをしなければなりません。

6－7　クルーズコントロール

- 前進で走行中に、クルーズコントロールレバーを、引くと、走行ペダルを、走行のまま固定することができます。（図１４）
- 走行スピードは、５段階で設定できます。
- ブレーキペダルを、踏むか、もう一度、走行ペダルを踏むと、解除されます。

- クルーズコントロールを、使用中は、いつでも、機体が停止できるように、ブレーキを踏む準備していてください。

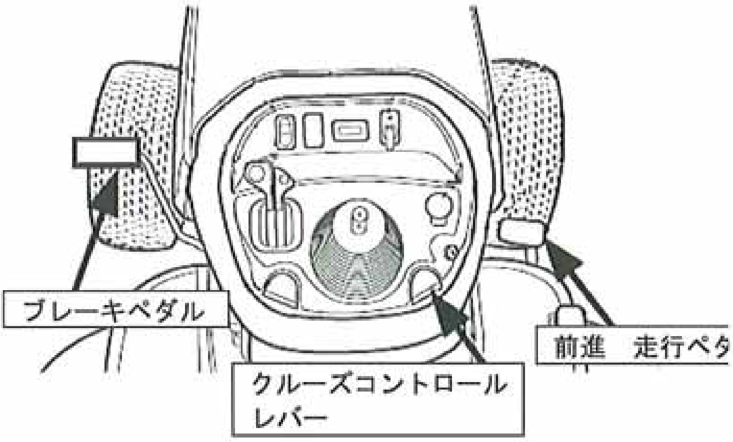


図１４

７　芝刈り作業

７－１　ブレードの回転

- ブレードを回転させるときは、エンジンを中速にして、ブレードスイッチを引き上げ、「ON」の位置にします。（図１５）

　※　ブレード回転中に、RMOスイッチを、押さないで、後退の走行ペダルを踏むと、エンジンが停止します。

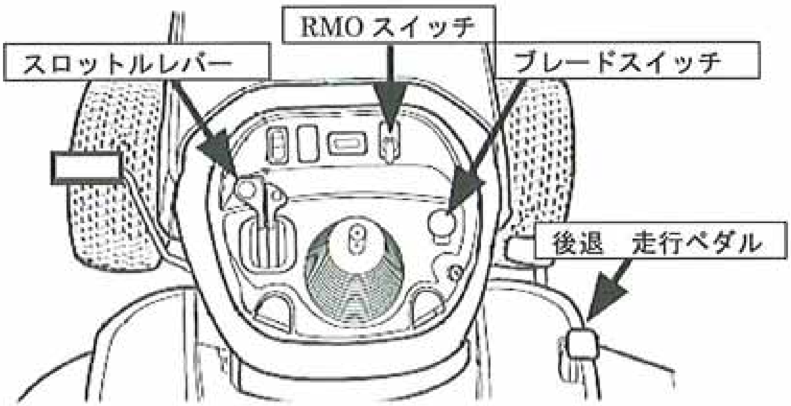


図１５

・注　意
●　芝刈り作業中に、他の場所へ移動するときは、ブレードを、停止すること。

７－２　刈高の調整

- 刈高は６段階の高さ（標準３２mm～９５mm）に調節できます。刈高調整レバーを操作して、作業条件に適した高さに調節して下さい。
- 刈高調節レバーを左に倒しながら、前後に動かします。（図１６）

刈高が低い　　・・・・前方に倒す
刈高が高い　　・・・・後方に引く

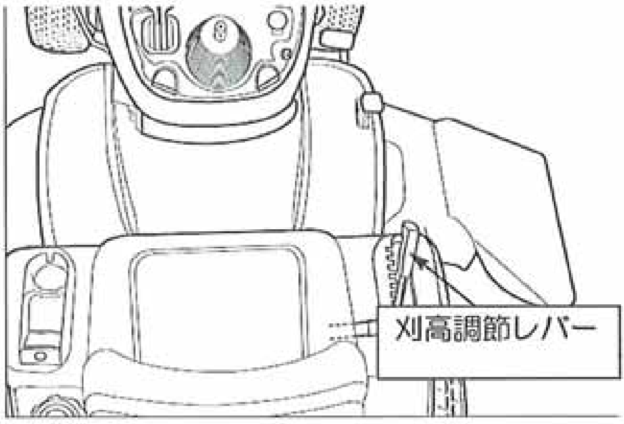


図１６

- スロットルレバーを「高速」の位置にしながら、ゆっくり走行するのが最も芝刈りに適しています。この状態の時、ブレードは一番スムーズに芝を刈れます。
- 芝の状態に合うように速度とエンジン回転を変えて下さい。背丈の高い芝、密集した芝では高速回転で、まばらな低い芝などは少し回転を下げます。

芝刈りについて

芝の健康や、作業の能率の為に、以下の項目を御奨めします。

- 芝を刈る際には芝の高さの 1/3 程度にして下さい。芝を深く刈り込むと、芝生に害を与えることがあります。
- 芝の高さが高い（１０cm 以上１５cm 以下）の場合には、まず刈高調節レバーで刈高を最も高い位置に合せて下刈りを行い、それから希望する高さに合せて刈り込みを行なって下さい。
- 芝はあまり期間を置かずに、こまめに刈り込んでください。短く刈り取られ飛散した芝は早く腐敗し、芝生の成長を助けます。
- 芝が乾いている状態で刈込んで下さい。　濡れた芝は刈りづらく、各部に付着しやすいため作業能率が減少します。
- 芝を刈込む方向を毎回交互に変えておくと芝がもつれ難くなります。
- 芝刈機のブレードは常に鋭く保っておいて下さい。鈍いブレードは芝を痛める原因となります。
- 芝刈後はデッキに付いている草切れなどを取り払って、きれいにしておいて下さい。

７－３　芝刈り中の後退

- 後退中の芝刈りは、可能な限り避けてください。
- もし、芝刈り作業中に、後退する場合は、ＲＭＯスイッチを回して、ランプが点灯しているときに、作業できます。
- ＲＭＯスイッチキーは、取り外すことが出来ます。
  後退しながらの、芝刈り作業を制限する場合は、キーを抜いておいてください。
- ブレードスイッチを、ＯＦＦにすると、ＲＭＯスイッチは、解除されます。

・警　告

- **子供が近くに来る可能性がある場合は、ＲＭＯスイッチを、ＯＮにしないでください。**
- **子供は、芝刈り作業に、近寄りたがるものです。**
- **芝刈機を後退する前と、後進中には後の方向を中心に周囲を良く観て、低い位置の子供や、ペット及び障害地を十分に注意して、運転して下さい。**

７－４　ブレードの停止

- ブレードはブレードスイッチを「OFF 切」の位置（押し下げる）にすると停止します。

・注　意

- ブレードスイッチを「ＯＦＦ」にした時、５秒以内にブレードが停止します。
- もしブレードが停止するまでに ５ 秒以上かかる場合は販売店で調節してから芝刈機を使用して下さい。

8 整 備

- 部品の交換が必要になった時は芝刈機の品質を損なわない為に、スナッパーの純正交換部品だけをご使用下さい。
- 整備の際に必要な純正部品や商品に関する情報は最寄りの代理店や販売店にてお求め下さい。又、年に一度は販売店に芝刈機を点検してもらい、新しい安全装置を取り付けてもらうことをお薦めします。

> **・警 告**
>
> 点検調整を行なう際には、必ず以下の事を 確認してから行なって下さい。
>
> 1. 本機を、平らで安全な場所に止めます。
> 2. エンジンキースイッチを停止「ＯＦＦ」にして、キーを抜取って下さい。
> 3. 駐車ブレーキを掛けて下さい。

８－１　芝刈機を押して移動する場合

- 通常の状態では油圧回路はポンプとモーターの間でオイルが循環しているため、抵抗が掛かり、芝刈機を押しても動きません。
- 芝刈機を押して移動させる時には、油圧解除ロッド（図１７）で油圧回路バイパス回路を開けなければなりません。

> **・注 意**
>
> - 油圧回路を解除せずに、芝刈機を無理に押して移動させないで下さい。

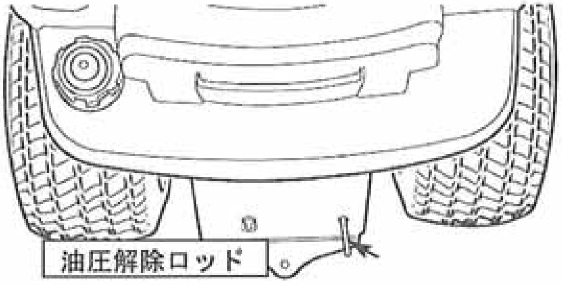


図１７

1 エンジンスイッチを「OFF」にして、エンジンを停止します。
2 芝刈機後方の、油圧解除ロッドを引っ張ります。
3 駐車ブレーキを解除します。
4 芝刈機を押して、移動させて下さい
5 移動し終わったら、必ず油圧解除ロッドを押しこんで、駐車ブレーキをかけて下さい。

> **・注 意**
>
> - 油圧解除ロッドを元に戻さないと、エンジンで走行することが出来なくなります。
> - 使用前に、油圧解除ロッドを元の位置に戻して下さい

8−2　バッテリーメンテナンス

- このバッテリーはメンテナンスフリー型です。
- 電解液が封入されておりシールが貼ってあります。
- **決してキャップのシールを剥がしてはいけません。**
- 起電力が低下して（**電圧が１２ボルト程度**）エンジンを始動することが出来ないときは、バッテリーを充電して下さい。

①　バッテリーの取り外し

エンジンフードを、開けると、運転席側に、バッテリーが装着されています。　（図１８）

1. まず、バッテリーの（**ー側**）から**黒色**コードの端子を止めているボルトとナットを外し、コードを取り外します。（A）
2. 次にバッテリーの（**＋側**）から**赤色**コードの端子を止めているボルトとナットを外して、コードを取り外します。（B）
3. 蝶ナットと、ワッシャー（D）を緩めて取り外します。
4. バッテリー押さえ（C）を、ステアリング方向へ、跳ね上げます。
5. バッテリーをケースから引き上げます。

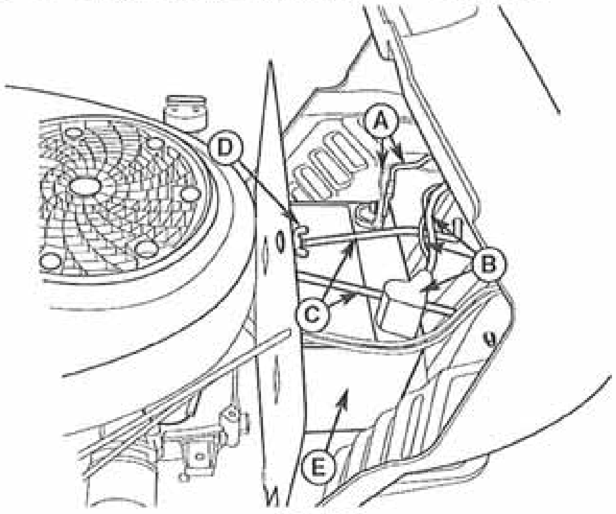


図１８

- 取り外した、バッテリーケース内部は、重曹の水溶液を使って、きれいにします。
- バッテリーターミナルは、ワイヤーブラシで、きれいにします。

②　バッテリーの取り付け

1. バッテリーを、バッテリーケースに、取り付けます。
2. バッテリー押さえで、バッテリーを押さえ、ワッシャーと、蝶ナットで固定します。
3. 先にバッテリーの（**＋**）ターミナルに**赤色**コードをボルトとナットで取り付けます。
4. 後から（**ー**）ターミナルに**黒色**コードをボルトとナットで取り付けます。
5. ターミナルの腐食を防ぐため、両方のターミナルにグリスを薄く塗りつけておきます。
6. （**＋**）ターミナルにターミナルカバーをかぶせます。
7. エンジンフードを閉めます

・警　告

- バッテリーを取り扱う際には、エンジンの取扱説明書を合わせて読み、充分に注意して下さい。
- 充電するときもバッテリーの上面に貼ってあるシールを剥がさないで下さい。
- もし電解液が皮膚、目、衣服などに電解液が着いたら、すぐ水でよく洗い流して下さい。
- 皮膚の着いたら多量の水でよく洗います。
- 目に入ったら水でよく洗い、すぐに医者にかかります。
- 電解液からは爆発性の高いガスが出ますからスパークや火気を近づけてはいけません。

■ バッテリーのケーブルを、取り外すときは、（一）ターミナルから、取り外します。
■ バッテリーケーブルを、取り付けるときは、（＋）ターミナルから、取り付けます。

8－3　バッテリーの充電

・注　意

バッテリーを芝刈機に取り付けたまま充電器を使用してはいけません。
他の機械からブースターでつないで充電したり、エンジンを始動してはいけません。

- 芝刈機を長期保管するは場合は、バッテリーの消耗を防ぐ為に１ヶ月に一度エンジンを中速で３０分間位運転してバッテリーに補充電して下さい。
- 気温が低い地域ではバッテリー液が凍り、ケースが割れることがありますから、芝刈機からバッテリーを外して、０℃以上の場所に保管して下さい。
- バッテリーが放電し、エンジンのセルモーターを充分に回転させることが出来なくなったらバッテリーを次の方法で充電して下さい。
- バッテリーを取外して風通しの良い、平らな場所に置きます。
- **充電するときもシールを剥がしてはいけません。**

1. バッテリーを、本機から取り外します。
2. 充電器の説明書に従って充電器のコードをバッテリーに接続し、６～１０アンペアで１時間充電します。
3. 十分に充電されていなければ、更に６～１０アンペアで１時間充電して、それでも十分に充電されていなければ、新しいバッテリーと交換します。

・注　意

バッテリーを芝刈機に取り付けたまま充電してはいけません。
他の機械からブースターでつないで充電したり、エンジンを始動してはいけません。

8－4 バッテリーのテスト

- ここでは簡単でごく一般的な、無負荷時テスト方法について説明します。

1. 無負荷時テスト方法はバッテリーの放電電流と無関係に行うことができます。
2. 無負荷時テスト方法は電圧計を用いて、充電状態を検査します。
3. 電圧計でバッテリーの電圧を測定するとバッテリーの充電状態が判ります。
4. 電圧計の（＋）リード線をバッテリーの（＋側）ターミナルに、電圧計の（一）リード線をバッテリーの（一側）ターミナルに接触させます。

- 次の表は電圧計での測定値によるバッテリーの充電状態を表示しています。

充電状態	電圧計
100%充電	12.60V
75%充電	12.40V
50%充電	12.10V
25%充電	11.90V

8−5　ヒューズの交換

- ヒューズは、バッテリー近くに、取り付けられています。（図 19）
- 20A の自動車用ブレードヒューズをお使いください。
- ヒューズが切れている場合は交換してください。（図 20）

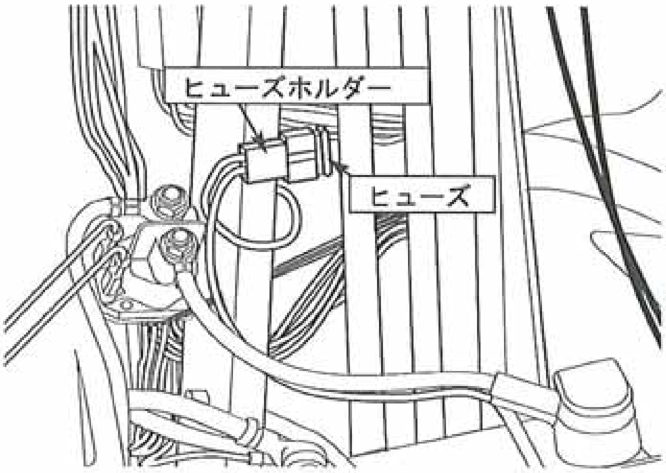


図 19

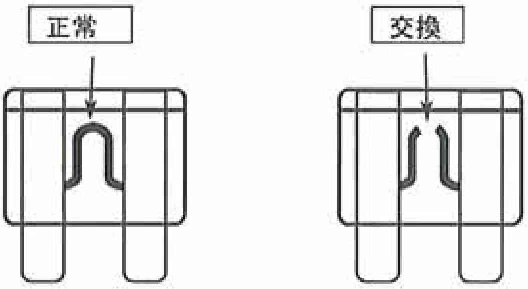


図 20

8−6　エンジンフードの取り付け取り外し

- エンジンフード取り外し

4. エンジンフードを開けます。
5. 反時計周りにソケット（A）を回転させて、ライトを取り外します。（図２０）
6. フードをゆすりながら、上に持ち上げ、ヒンジから、取り外します。（図２１）
7. 外したフードは、きれいで平らな場所に置いてください。

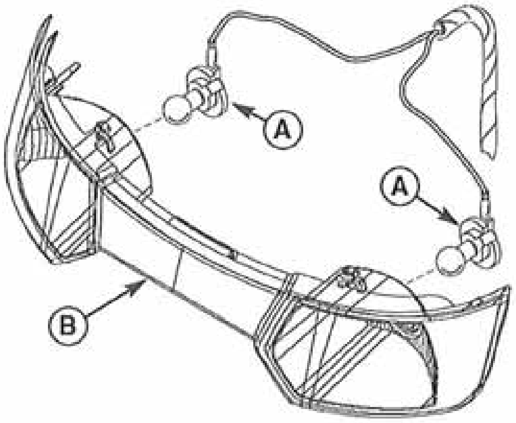


図２０

- エンジンフード取り付け

1. ヒンジ（A）を、支点（C）の上におきます。
2. フードを、ストッパー（D）が効くまで、前方に倒します。（図２１）
3. ライトを、取り付けます。
4. フードを閉じます。

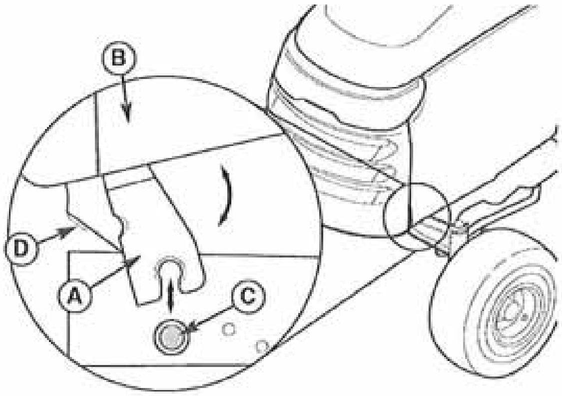


図２１

8－7　デッキの取外し

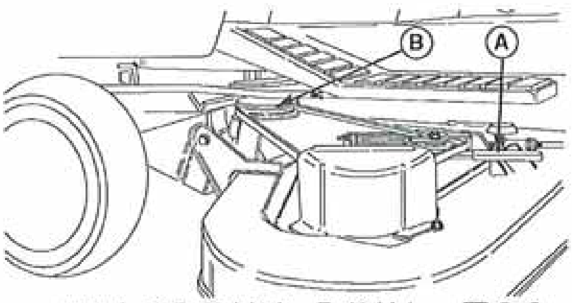
・警　告

- デッキの取外し・取付を行う前に、パーキングブレーキをかけてあること、ＰＴＯスイッチがＯＦＦになっていること、エンジンが停止していることを確認して下さい。

・注　意

- リフトレバーは、一番低い位置にすること。取外し・取付の際は、怪我をする事を避ける為に木のブロックを置いて下さい。デッキの取り付け・取外しが終わったら、リフトレバーを一番高い位置に戻して下さい。
- マフラー付近が熱くなっている場合がありますので、注意してください。

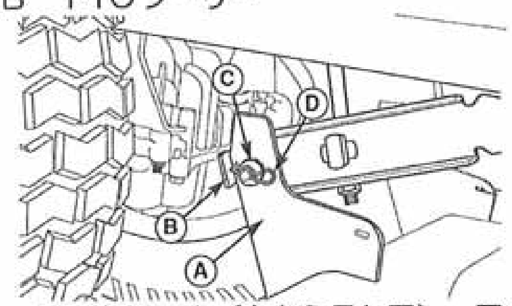
1. 本機をコンクリートなど水平で、硬い場所に駐車してください。
2. デッキの下に木のブロックなどを置いて下さい。
3. 刈高レバーを一番低い位置にして下さい。
4. アイドラーアームを動かし（A）ベルトテンションを緩めます。ＰＴＯプーリー（B）からベルトを外します。（図２２）



ベルトの取り付け・取り外し　図２２

A　アイドラーアーム
B　PTO プーリー

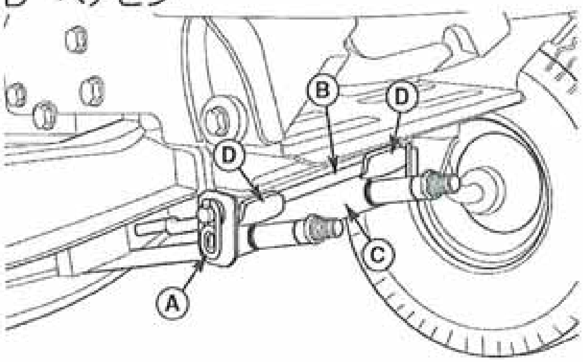
5. ヘアピン（D）とワッシャー（C）を取外し、トラクターリフトアーム（B）からモアリフトプレート（A）を取外します。なくさない為に、ワッシャー（C）とヘアピン（D）を穴に差し込んでおいてください。（図２３）
6. リフトレバーを一番高い位置に戻します。



リフトアーム（右から見た図）　図２３

A　モアリフトアーム
B　トラクターリフトアーム
C　ワッシャー
D　ヘアピン

7. タイヤをまっすぐに向けます。セイフティクリップ（A）とロッド（B）を外します。モアハンガー（C）を下げます。（図２４）
8. タイヤを左にいっぱいまで向けトラクターの右側から引き出します。



モアヒッチ　図２４

A　セイフティグリップ
B　ロッド
C　モアハンガー
D　トラクターブラケット

8−8　デッキの取り付け

1. トラクターを駐車します。ＰＴＯスイッチとエンジンを停止し、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。タイヤを左にいっぱいまで向けます。
2. モアリフトレバーを一番低い位置にします。モアデッキをトラクターの右側から押込み、モアヒッチとトラクターヒッチを１列状にします。
3. タイヤをまっすぐにし、モアハンガー（図３のC）を上げます。ロッド（B）をモアハンガー（C）とトラクターブラケット（D）に挿入します。セイフティクリップをとめます。
4. モアリフトプレート（図４のC）とトラクターリフトアーム（B）を取り付けへアピン（D）とワッシャー（C）を取付けます。
5. アイドラープーリー（図２のA）を動かしてベルトテンションを緩め、ＰＴＯプーリーにベルトを取付けます。

※　納品時は50"デッキモデルは、テンションスプリングが外れています。始めにテンションスプリングを取り付けから上記のデッキの取り付けの通り行って下さい。

8−9　ブレードの取り外し

・注　意

- **ブレードを、取り扱うときは、必ず保護手袋を、着用して下さい。**
- **ブレードは、図のワッシャーで確実に取り付けられていなければなりません。**

1. デッキを、本体から取り外します。（8−7　デッキの取外し参照）
2. ウッドブロックを使って、ブレードの回転を押さえて、ボルトもしくは、ナットを緩めてください。（図２５）
3. ボルトもしくはナット、ワッシャを、取り外します。
4. ブレードを取り外します。

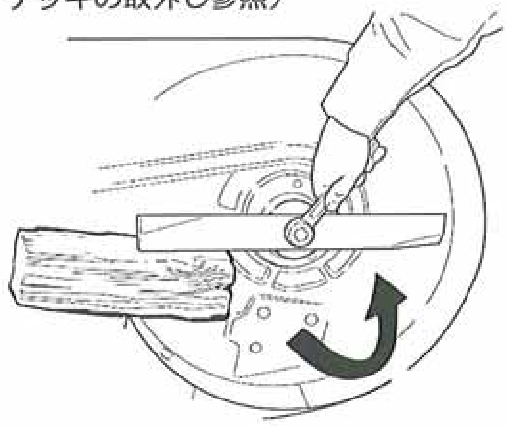


図２５

8−10　ブレードの点検･研磨

- ブレードを研磨します。（図２６）
  研磨長さは、
  ４２インチデッキ　１２０mm
  ５０インチデッキ　９０mm
- ブレードが破損している場合は、交換してください。

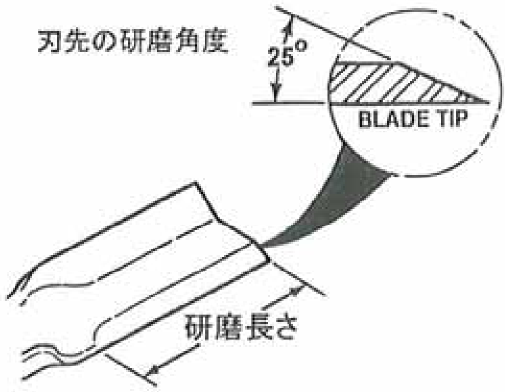


図２６

● 図の用に、刃物の釣り合いをみます。

● バランスがよければ、刃物は水平になります。バランスが悪い場合は、研磨しなおすか、交換してください。（図２７）

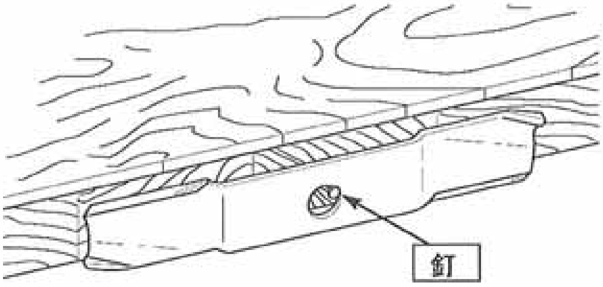


図２７

８−１１　刃物取り付け

● 外した逆の手順で、刃物、ボルト　ナット　ワッシャーを、取り付けます。（図２８）

● 図の用に、ウッドブロックを置き、ブレードを、押さえて、指定のトルクで締め付けます。

● ブレードは、下記のトルクで取り付けられていなければなりません。

４2インチデッキ　（ナット）

　95−108Nm

50インチデッキ　（ボルト）

　61−75 Nm

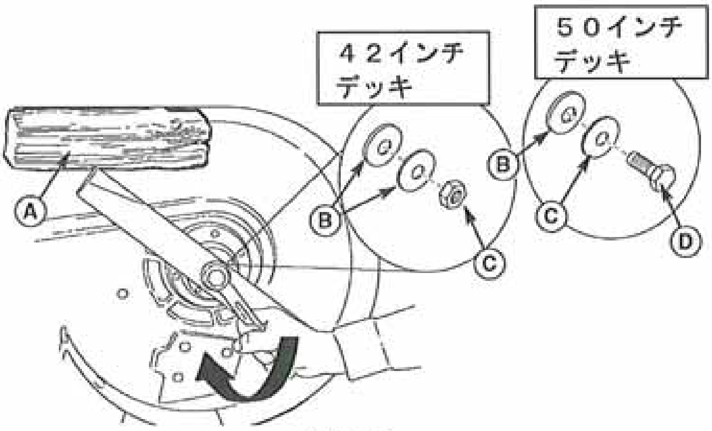


図28

● 安全のために、トルクレンチを、お使いください。

８−１２　油圧変速機（ＨＳＴ）

● 油圧変速機は整備不要です。油圧変速機が故障したときは販売店にご相談下さい。

● ＨＳＴの型式は、下記に表示してあります。

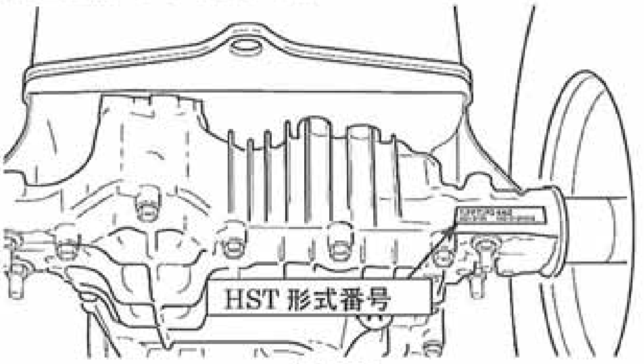


図 29

８−１３　グリスアップ

● 図に示した場所に、25 時間ごとに、グリスアップしなければなりません。

● 可動し、接触する部品は、注油しなければなりません。

● 表面の汚れを落としてから、注油してください。

● ベルト、プーリーには、油分がつかないように注意して下さい。

グリース（自動車用リチウムグリース）		オイル	
ステアリングリンケージ モアリンケージ 後輪車軸 旋回前輪車軸		ペダルロッド　ブラケット シート調整部 デッキ高さ調整リンク トランスミッションアイドラーASSY	

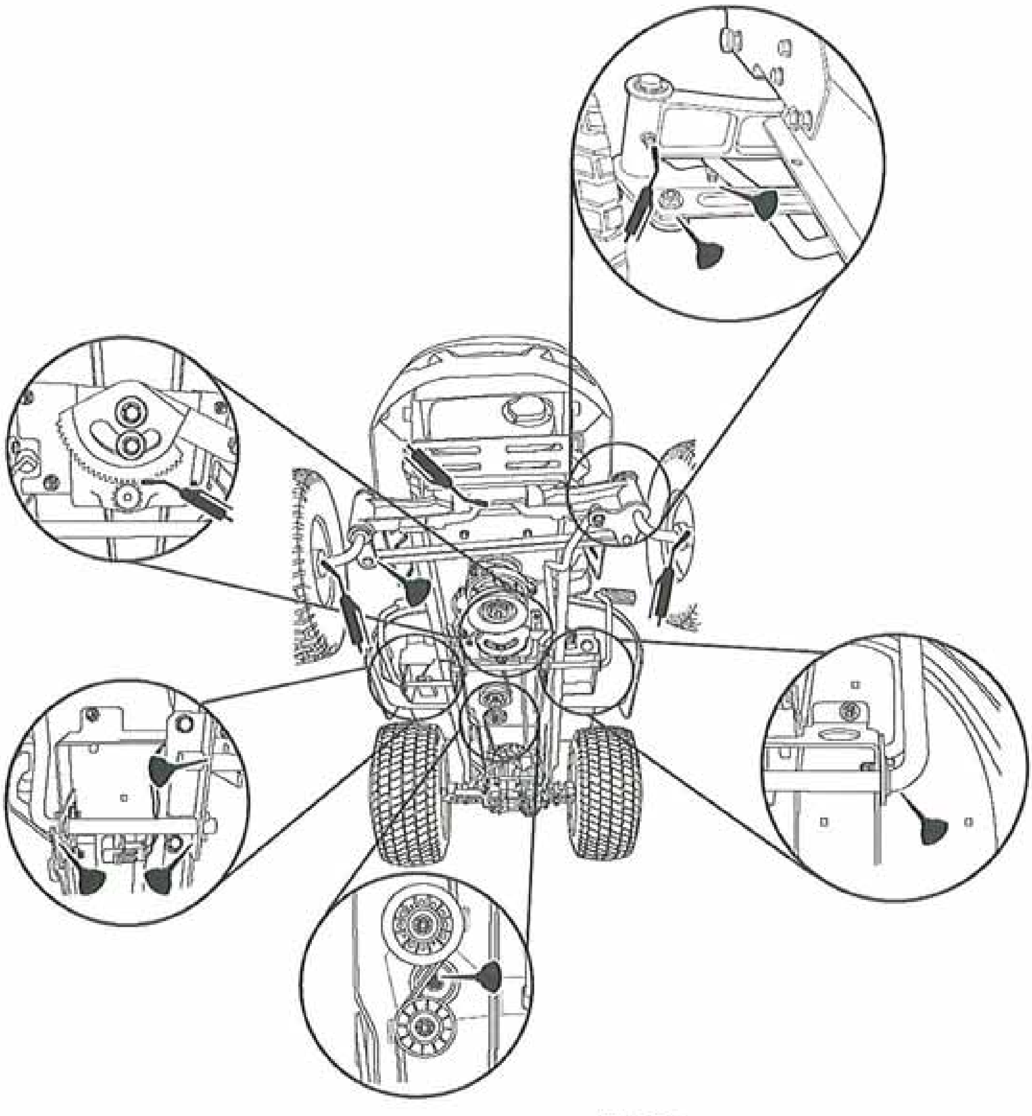


図30

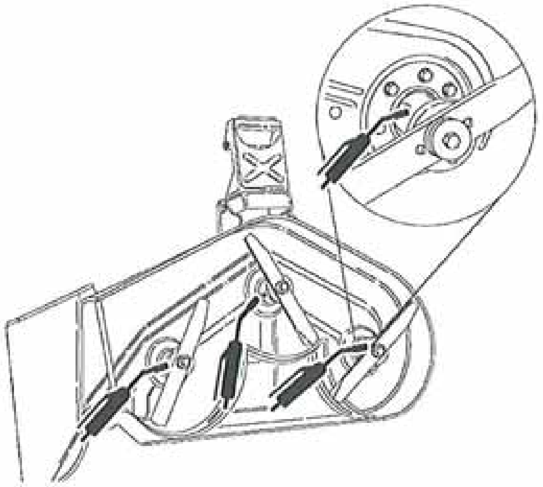


図31

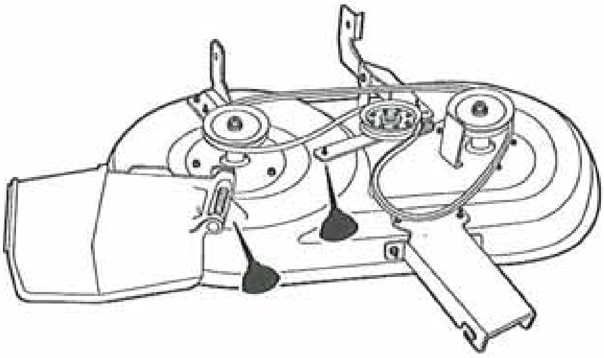


図32

8－14　後輪車軸のグリスアップ

- 1年に1度、ホイールを取り外して、グリスアップします。

  これらは、ホイールが固着することを防ぎ、その後のメンテナンスを、容易にします。

1. エンジンを切り、ブレードを、オフにし、前輪には、輪止めをします。
2. リヤのフレーム下に、ジャッキを、置くか、チェーンブロックを、利用して、タイヤが3-5cm浮くまで、持ち上げます。

※　安全のために、必要以上に、本機を持ち上げないで下さい。

※　ワッシャーは、軸のガタツキに応じて、調節されてす。

3. 車軸についている部品を取り外して、車軸に、リチウムグリスを塗ります。
4. 分解の反対の手順で、組み立てます。
5. 本機は、ゆっくりと地面におろします。
6. キーが確実にホイールに取り付けられているか確認します。

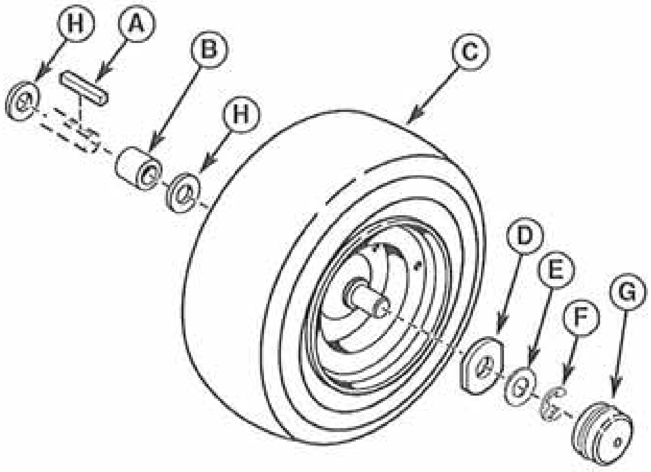


図３３

A　キー
B　スペーサー
C　ホイール　ハブ
D　特殊ワッシャー
E　小ワッシャー
F　Eクリップ
G　キャップ
H　大ワッシャー

8－15　保管

- シーズンオフで、長期間本機を使用しない場合は、説明書の各項目に従って、メンテナンスを行なってください。
- ブレードスイッチは、オフにして、駐車ブレーキをかけて、キーは抜いておいてください。
- エンジンの取扱説明書の保管-の項目にに従って、メンテナンスを行ないます。
- バッテリーは取り外して、乾燥した、冷暗所に保管し、月に一度、完全充電を行なうと、長持ちします。
- バッテリーを、取り外さない場合は、（—）ターミナルのケーブルを取り外します。

１１　トラブルシューティング

トラブル内容	対処方法
エンジンが回転しない	
バッテリーの容量がない	充電するか又は、交換します
ヒューズが切れている	ヒューズを交換します
配線が外れている又は痛んでいる	点検清掃を行ない、配線をきちんとつなぎます
点火スイッチが不良	スイッチを点検／交換します
始動装置が不良	エンジン取り扱い説明書を参照してください
エンジンが始動しない	
ブレードスイッチがONになっている	ブレードスイッチをＯＦＦにします
駐車ブレーキがかかっていない	駐車ブレーキをかけます
クルーズコントロールが ON になっている。	クルーズコントロールを、解除します。
燃料不足	燃料を給油します
チョークを使用していない	スロットルレバーをチョークの位置にします
ヒューズが切れている	新しいヒューズと交換します。
スパークプラグコードが外れている	スパークプラグコードを接続する
バッテリーターミナルが、汚れている	バッテリーターミナルを清掃します
バッテリーの容量がないか不良	充電するか又は、交換します
ワイヤー類が、外れているか、もしくは不良	取り付ける、もしくは交換します。
安全スイッチが不良	安全スイッチを点検／交換します
燃料に水が混ざっている	燃料を抜いて、新しい燃料と入れ替えてください。同時に、燃料フィルターも交換してください。
燃料が古い。もしくは汚れている	
始動後にエンストを起こす	
運転者が座席に座っていない	正しい姿勢で座席に座ります
チョークが閉じている	チョークを開けます
燃料が不足している	燃料の補給します
始動後にエンストを起こす	
エアクリーナーが汚れている	エアクリーナーを清掃又は交換します
スパークプラグが故障又は汚れている	スパークプラグを清掃／交換します
スパークプラグの電極の隙間が正しくない	スパークプラグの電極間の隙間を調節します
燃料フィルターが詰まっている	燃料フィルターを交換します
水、ごみ、又は劣化した燃料が燃料系統に入っている	燃料を全て抜いて、燃料系統を清掃及び燃料フィルターを交換します
エンジン出力が上がらない	
エンジンに負荷がかかりすぎている	エンジンの負荷になるものを取り除きます
エアクリーナーが汚れている	エアクリーナーを清掃又は交換します
エンジンオイルが少ない	エンジンオイルを適切な量、給油します
冷却ファンやエアスクリーンが汚れている	冷却ファンやエアスクリーンを清掃します
スパークプラグが故障している又は汚れている	スパークプラグを清掃／交換します
スパークプラグの電極の間隙が正しくない	スパークプラグの電極間の隙間を調節します
水、ごみ、又は劣化した燃料が燃料系統に入っている	燃料を全て抜いて、燃料系統を清掃及び燃料フィルターを交換します

キャブレターが調節されていない	キャブレターを正しく調節します
スイッチを切った時に、バックファイヤーを起こす	
スロットルレバーが高速のままである	スロットルレバーを低速にして、低速で１分ほど回転させてからスイッチをＯＦＦにします

トラブル内容	対処方法
振動が大きい	
ブレードが摩耗、曲がり、又は破損している	ブレードを研磨、又は交換します
ブレードの取付けが不備	ブレードをしっかりと取付けます
エンジンは稼動するが芝刈機が動かない	
油圧解除ロッドが解除位置になっている	油圧解除ロッドを押しこみます
トラクション・ドライブベルトがゆるんでいる	販売店、又は代理店にご依頼ください
トラクション・ドライブベルトの不良、破損	販売店、又は代理店にご依頼ください
ブレードが回転しない	
ブレードスイッチがＯＦＦになっている	ブレードスイッチをＯＮにします
デッキ ドライブ ベルトの磨耗	デッキ ドライブ ベルトを交換します
電磁クラッチ不良	販売店で点検して下さい。
芝がきれいに刈れない	
タイヤ空気圧が適当でない	タイヤに適切な圧まで空気を入れます
刈高を高く又は低く設定している	刈高調整レバーで適正な刈高に調節します
芝がきれいに刈れない	
エンジンの速度が遅い	速度レバーをFAST まで上げます
芝刈機の速度が早すぎる	速度を下げます
デッキの左右の高さの調整が不良	デッキの左右の高さを調整します 販売店、又は代理店にご依頼ください
デッキの前後の高さの調整が不良	デッキの前後の高さを調整します 販売店、又は代理店にご依頼ください
デツキ ドライブ ベルトが磨耗している	販売店、又は代理店にご依頼ください
デツキ ドライブ ベルトが滑っている	販売店、又は代理店にご依頼ください
ブレードが摩耗している、又は破損している	ブレードを研磨、又は交換します
芝の排出が不良	
エンジンの速度が遅い	速度レバーをFAST まで上げます
芝刈機の速度が早すぎる	変速レバーで芝刈機の速度を下げます
芝が濡れている	芝が乾いている時に芝刈りを行います
ブレードが摩耗している、又は破損している	ブレードを研磨、又は交換します
デッキに芝やゴミが詰まっている	デッキを清掃します
純正のブレードを使用していない	スナッパー純正のブレードに交換します
ブレードの取付けが不備	ブレードをしっかりと取付けます
バッテリーの不良	
ケーブルの接続不良	ターミナル部を清掃しケーブルを確実に取付けます
バッテリーの異常	バッテリーを交換します
エンジンの充電機構の不良	販売店、又は代理店にご依頼ください

１２　定期整備表

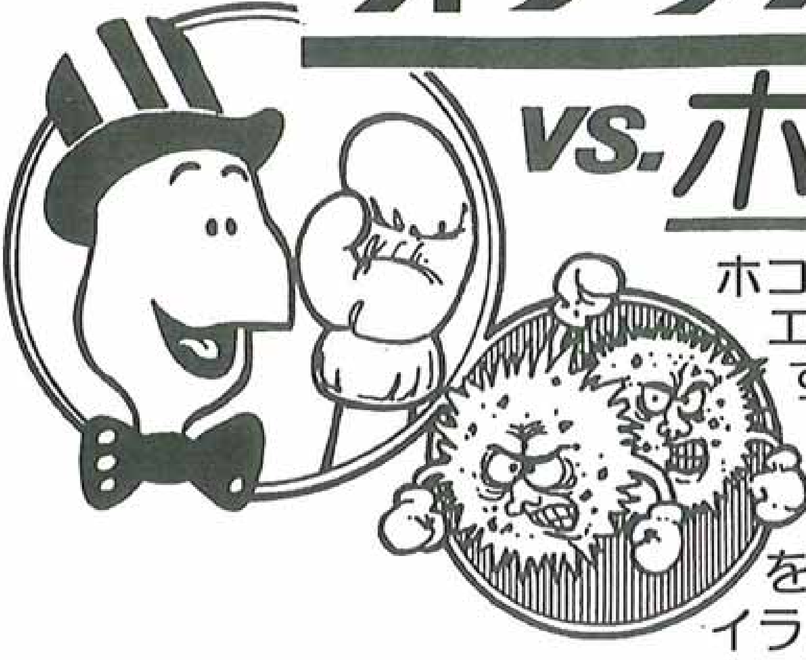
- 下記にしたがって、定期点検を行なって下さい。
- もし、点検で、不具合があった場合は、修理、交換が行なわれるまで、使用してはいけません。
- 詳しくは、販売店とご相談ください。

		使用する前に	5時間使用ごとに	２5時間使用ごとに	１００時間使用ごとに	２５０時間使用ごとに	使用シーズンの初めと終わりに
安全装置	インターロックの点検						●
	ブレーキの点検						●
	ブレード停止時間の点検						●
本機、デッキのメンテナンス	本機、デッキのねじの緩み点検		●				
	エンジン冷却機構の清掃				●		
	ブレードクラッチ点検（注１）					●	
	トラクターとデッキグリスアップ			●			
	リアアクセルシャフトグリスアップ						１年に１度
	バッテリーとバッテリーケーブルの清掃				●		
	タイヤ空気圧点検			●			
	デッキの清掃とブレードの点検				●		
エンジンのメンテナンス（注２）	エンジンオイル量点検	●					
	エアクリーナー点検	●					
	エンジンオイル交換（注３）		●		●		●
	エンジンオイルフィルター交換					●	●
	スパークプラグ清掃						●
	燃料フィルター交換				●		

（注１）	販売店へご相談ください。
（注２）	エンジンの取扱説明書を参照して下さい。
（注３）	エンジンオイルは初めて使用してから５時間後に１回交換してください。 また、気温が３０℃以上になったり、埃っぽい環境で使用している時には表で示した期間よりも頻繁に点検、交換して下さい。

付録　スナッパーとホコリの戦い

スナッパー vs. ホコリ!



ホコリはどのようにしてエンジンをダメにするのか。

適切な点検・整備はどのようにエンジンをホコリから守るのかイラストで表しています。

スナッパー社はその芝刈機に最も適したエンジンを搭載しています。

スナッパー社は長く満足なサービスを提供するためにそれらの製品の中で最適に使用できるエンジンと構成部品を使用します。

しかし、適切な点検・整備はエンジンの寿命を延ばす基本的な条件です。

ホコリはエンジンの大敵です。

芝刈機のエンジンは地面に接したホコリと汚れの嵐の中で高速で運転することを要求されます。

ホコリの粒子はエアークリーナーの外側で止められ、やがてエアークリーナーに詰ります。詰まったエアークリーナーを通過する空気の量は少なくなり、ガソリンが濃い状態で運転され、次のような悪い結果を生じます。

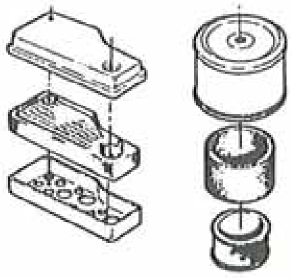
エアークリーナーの点検・整備不良による、エンジンの損傷はクレームになりません。

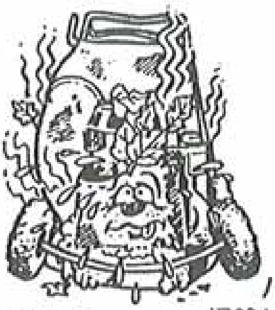
芝刈機を使用する人が、エンジンの取扱説明書に従って、定期的にエアークリーナーを掃除したり、必要に応じてエアークリーナーを交換することが大切です。

エアークリーナーは短い期間でひんぱんに点検・整備することが大切です。

エンジンの取扱説明書に従って、正しく点検することが望ましいのですが、ここでは一般的なエアークリーナーの点検・整備方法を述べますので参考にして下さい。

1. 燃料消費量の増加
2. 出力低下
3. エンジン始動困難
4. 不完全燃焼　排気煙増加
5. 燃焼室等へのカーボン堆積
6. プラグ電極の汚れ
7. シリンダーウオールの掻き傷
8. バルブの焼け
9. エンジン内部の早期摩耗
10. 結果として修理費用の増加





空気はエンジンを冷却するために必要です。ホコリやゴミ、草の屑はエンジンの冷却風取入ロスクリーンや冷却フィンに溜まり空気の流れを妨げます。

冷却風取入ロスクリーンや、冷却フィンを定期的によく掃除して下さい。

少なくとも、シーズン中に一度や二度エンジンのブロアーハウジングを外してハウジングの内部や冷却フィンの間のゴミを掃除します。 更にエンジンの外側を常に掃除しておかないと、エンジンがオーバーヒートして次の症状を起こし、エンジンの寿命を短くします。

1. バルブガイドの歪
2. バルブの膠着
3. シリンダーウォルの掻傷
4. 過回転
5. 出力低下
6. エンジン不調

一般的にウレタンフォームのフィルターは食器用洗剤で洗って、よくすすぎ乾燥します。 その後エンジンオイルを少し染み込ませてから、軽く絞って余分なオイルを絞り出します。

注意・・このタイプのフィルターはオイルを少し染み込ませないと細かいホコリがエンジンに入りエンジンが早く傷みます。

紙製のフィルターは軽く叩いてホコリを落とします。
フィルターに穴が開いたり，ホコリが詰まって掃除できないときは新しいフィルターと交換します。

細かいゴミは汚れた燃料缶から燃料に混ざって、エンジンに侵入してきます。

ゴミや水で汚れていない燃料缶を使用して、いつもきれいな新しいガソリンを使用します。

ガソリンは保管中に劣化して、キャブレターへの流入を妨げる、ガム質が形成されます。

3ヶ月以上保管したガソリンは使用してはいけません。

シーズンオフに芝刈機を保管する前に、燃料タンクからガソリンを抜き取り、さらにエンジンを始動して、燃料ホースやキャブレター内のガソリンを空にします。

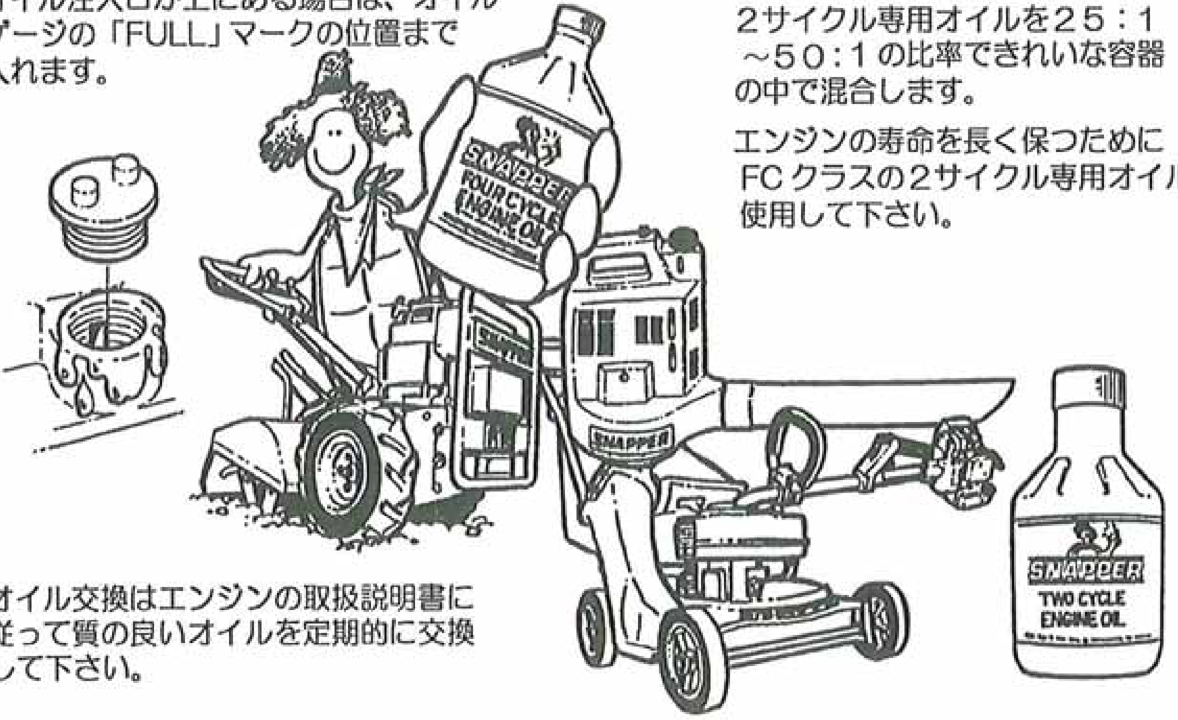
エンジンには適切な潤滑が必要です。
4サイクルエンジンはエンジンを始動する前に、オイル量を点検します。
オイル量を点検する時は、オイル注入口の周りをきれいにふいて下さい。
芝刈機を平坦な場所に置いて、ディップスティックでオイル量を調べます。
オイル量は「FULL」マークより多くてはいけません。「LOW」の位置のときは「FULL」マークまでオイルを補充して下さい。
オイルの量が少ないと、エンジンが焼付きを起こします。

４サイクルエンジンは充分な量のオイルが必要と考えて、オイルを入れ過ぎないで下さい。　エンジンのオイル注入口から少し流れ出る状態で良いのです。

オイル注入口が上にある場合は、オイルゲージの「FULL」マークの位置まで入れます。

２サイクルエンジンはガソリンと２サイクル専用オイルを２５：１～５０：１の比率できれいな容器の中で混合します。

エンジンの寿命を長く保つために FC クラスの２サイクル専用オイルを使用して下さい。



オイル交換はエンジンの取扱説明書に従って質の良いオイルを定期的に交換して下さい。

作業前の点検項目

１．エンジンオイル	オイル量確認
２．エアークリーナー	きれいに掃除
３．燃料タンク	新しくきれいなガソリン
	燃料コックを開く
	キャップのバルブを開く
	燃料フィルターの点検
４．チョーク	完全に閉ること
５．インターロック	正しく接続されているか
６．ブレードレバー	ニュートラルの位置
７．スパークプラグ	電極の掃除
	二次コードを正しく接続
８．スロットルレバー	チョークの位置にする
９．ブレード	正しく研磨してあるか
	取付ボルトの締付トルク
１０．マフラー	確実に取付けてあるか
	芝が付着していないか
	詰まっていないか

どうかエンジンの敵はホコリであることを胸に留めておいて下さい。

エンジンの内側のホコリと、外側のほこりに注意して下さい。内側のホコリはエンジンを早く傷めます。

外側のホコリはオーバーヒートの原因となり、エンジンを傷めます。

不完全なオイルの点検、エアークリーナーの点検がエンジンを早く傷めますが、これらの原因で起きたエンジンの損傷はクレームになりません

早めの点検・整備は少ない整備費用で済みます。

取扱説明書をよく読んで、点検・整備をおこたり無く実施して下さい。

SNAPPER™

LT200シリーズ
LT2250／LT2042

取扱説明書

ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読み下さい

POWERED BY BRIGGS&STRATTON

ブリッグス・アンド・ストラットンジャパン株式会社

〒523-0817　滋賀県近江八幡市浅小井町 591
TEL：0748-34-0200　FAX：0748-33-3818

SNP-BSJ03/2009.04